

## 2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

ふり 氏	がな 氏  さへき 綾那 あやな
(研究テーマ名) 12 世紀コンスタンティノープルにおける皇帝権と社会	
(研究活動実績) <p>今年度、12 世紀ビザンツ帝国の歴史家で皇女アンナ・コムネナの皇帝権へのかかわりに着目し、ビザンツの首都コンスタンティノープルにおける皇帝権と社会について考察した。4 月 28 日の関西ビザンツ史研究会で、「アンナ・コムネナによるヨハネス 2 世批判——ポルヒュロゲネトスの考察から——」という題目で研究報告を行なった。その報告内容は、アンナ・コムネナが自著『アレクシオス 1 世伝』の中で、「ポルヒュロゲネトス（緋色の産室生まれ）」を使って、帝位をめぐるライバルであった実弟ヨハネス 2 世コムネノス批判を行なったという論証を試みた。7 月 6 日の近代女性史分科会で、「12 世紀ビザンツ帝国史におけるジェンダー史の流れ——女性歴史家アンナ・コムネナを例に——」という題目で研究報告を行なった。発表させていただいた場がビザンツ史や中世ヨーロッパ史を専門としていない方々がほとんどであったため、最初にビザンツ帝国史研究の国内での現状を話してから、アンナ・コムネナに関するジェンダー史に焦点を置いた研究史を報告した。6 月から 9 月にかけて、インターナショナルスクールのトレーニングプログラムに参加し、IS セミナーでの報告準備を行なった。IS セミナーは、海外招聘研究者の都合で 2014 年 5 月に延期になった。そのとき、“The Byzantine Princess Anna Komnene’s critique of the Emperor John II Komnenos (1118-1143) in the <i>Alexias</i>”というタイトルで、報告する予定である。12 月に、「ビザンツ皇女アンナ・コムネナによるヨハネス 2 世コムネノス批判」というタイトルで論文を投稿した。内容は 4 月の関西ビザンツ史研究会での報告が基になっている。現在、論文は改稿中で 3 月末までに再投稿する。上記の成果は全て、博士論文の一部とする。</p>	